

PIECES Annual Report

2022-2023



こどもがこどもでいられる社会を

認定 NPO 法人 PIECES

力の行方

あなたの力は

なんのために使われるのでしょうか

あなたの力は

何を守ろうとするのでしょうか

あなたの力は

どこに向かうのでしょうか

あなたの力が誰かを傷つける時

もしかしたらあなたも傷ついているのかもしれない

あなたの力が誰かを癒すとき

もしかしたらあなたも癒されているのかもしれない

あなたの力があなたを守るのと同じくらい

誰かを癒すものとなるように

あなたの力があなたにとっての宝物となるのと同じくらい

誰かにとっての心の泉となるように

あなたの力が痛みに溢れた最後の砦となる前に

この地球に溢れる力が優しさとなり

その痛みが癒されますように

あなたの力が優しき水となり、あたたかい光となる時

闇に蠢く豊かな生命の芽が踊り出すのでしょうか

この世界に眠る78億の力の行方が

これから芽吹く生命の行方の糸を紡ぎ出し

今生きる生命の行方を惑わせる

大いなる痛みではなく

複雑な癒しを求めて

その行方に手を伸ばしながら

力の源のあなたの存在を確かめる

ああ、そこにいたんだね

力の影に見えなくなった あなたは

ああ、そこにいたんだね

力を宝物にもする あなたの本当の力は

- 2 力の行方
小澤いぶきからみなさまへ
- 4 PIECESとは
- 6 子どもの権利から
ウェルビーイングを考える
- 8 【C for C】活動報告
- 11 【C for C】市民性の広がり
- 12 【C for C】これからの展開
- 14 【Cultivate Citizenship】活動報告
- 17 【Piece for Peace】活動報告
- 20 Partnership
- 22 活動決算書
- 23 2023年の展望

認定NPO法人 PIECES
代表理事 小澤いぶき

精神科医を経て、児童精神科医として複数の病院で勤務。
トラウマ臨床、虐待臨床、発達障害臨床を専門として
臨床に携わり、多数の自治体のアドバイザーを務める。
PIECESの活動を通じて、人の想像力により、一人ひとりの
尊厳が尊重される寛容な世界を目指している。



PIECESとは

認定NPO法人PIECESは、子どものメンタルケアを専門にする児童精神科医の小澤を中心に、2016年に設立。子どもの周りに信頼できる他者を増やすことで、子どもが孤立しない地域をつくることを目指しています。

子どもの孤立が深まる前に、地域の中で子どもを見守り、子どもに寄り添う市民を増やすための市民性醸成プログラムや啓発活動を実施。一人ひとりが自分らしい市民性を醸成し、行動できるようになることで、子どもと自分、地域のウェルビーイングをつくることができると考えています。

ISSUE

頼れない・頼る人がいない
子どもの孤立

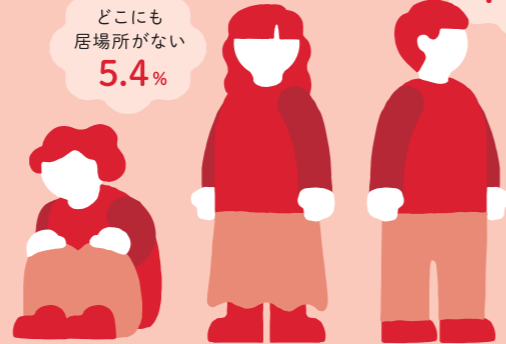


どこにも相談
できる人がいない
21.8%

支援機関を
利用しようと思わない
69.7%

どこにも助けて
くれる人がいない
11.3%

どこにも
居場所がない
5.4%



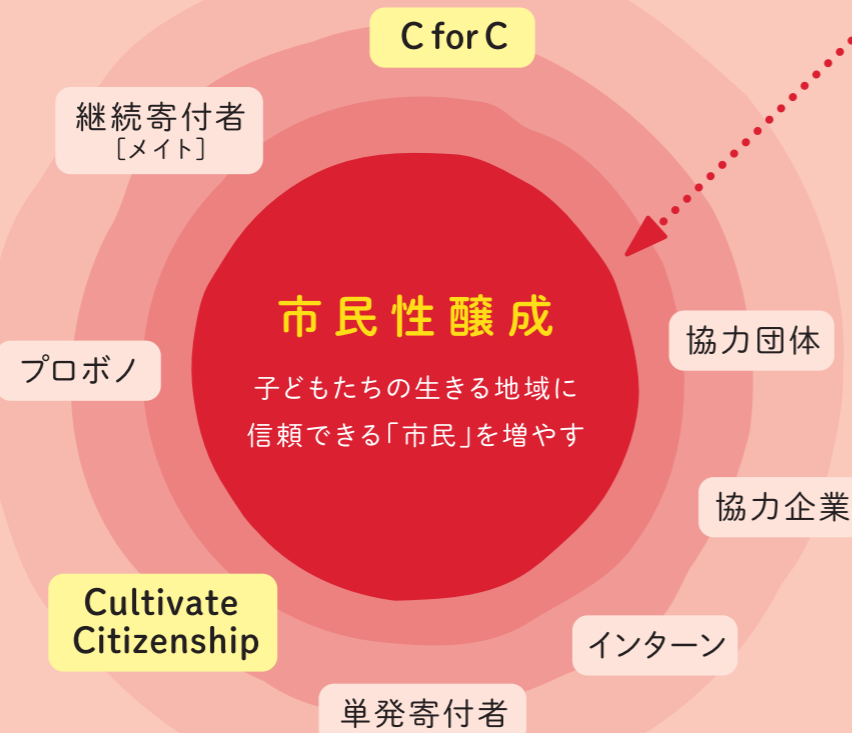
出典：内閣府「令和3年版 子供・若者白書」子供・若者インデックスボード

VISION

子どもたちが孤立せず、
優しい繋がりが
溢れる未来

CforC
(Citizenship for Children)
子どもの孤立が深まる前に、地域の中で子どもを見守り、子どもに寄り添う市民を増やすためのプログラム
「Citizenship for Children(CforC)」

Cultivate Citizenship
子どもを取り巻く社会をつくる一員である私たちが大切にしたい点や、子どもと関わる際に大事なこと、心のケアなどに関する発信、啓発活動。



MISSION

一人ひとりのマインドセットをアップデートし、
社会のなかに **市民性を醸成** する

心から動く

ポジティブな気持ちから動きます。手間を厭わず、面倒に思えることでもアウトプットやプロセスにこだわることに心を動かします。

ひらかれた
weのマインドを持つ

自分と他者を区別せずに共鳴し合っている感覚を大切にします。それは、生態系全体や、未来へのまなざしにも繋がります。

価値観を外す

他者や自分の行動や感情の背景を想像します。そして、既成概念や社会規範、自分の価値観をいったん外してみつめてみます。

自分も他者も尊重する

相手のことを尊重します。自分の気持ちも蔑ろにせず、外に出し、対話をします。小さな出来事やつながりも大事にします。



子どもの権利から、 ウェルビーイングを考える

執筆：小澤いぶき

日本における15歳未満の人口の割合は、11.6%（2022年）と世界で最も少なく、それゆえに周縁化されてしまう可能性が高い現状ともいえます。だからこそ子どもたちが、自分たちに関わることを自分たちで考え、育んでいける環境が大切です。こども基本法が施行された今、あらためて子どもたちのウェルビーイングについて考えていきます。

子どもの権利条約・4つの権利

すべての子どもは、尊厳と人権を尊重される権利を持ちます。1989年に国連で採択され、現在194カ国が批准している「子どもの権利条約」。「差別の禁止」「生命、生存及び発達に対する権利」「児童の意見の尊重」「児童の最善の利益」の4原則をもとに、子どもの権利を保障しています。日本では子どもの権利条約の精神に則り、子どもの権利がまもられる社会の実現をめざす「こども基本法」という包括的な法律が、2023年4月1日から施行されました。

生きる権利

育つ権利

守られる権利

参加する権利

子どもの権利とウェルビーイング

ウェルビーイングは、身体的、精神的、社会的に満たされている状態であり、疾病の有無に関わらず、全体的に「良好な、その人にとってちょうど良い状態」を表す包括的な概念とWHOでは定義されています。国連で子どもの権利条約が採択されたのを機に、最低限度の生活ではなく、子ども個人の尊厳と人権を尊重し、人間的に豊かな生活の実現を図るウェルビーイングの概念へ転換が進みました。そのあと発表されたユニセフレポートカード16では、子どもの権利条約に定められている「子どもたちの意見表明の機会および意思決定への参加」が、幸福度にも成長にも不可欠であることが記されています。近年では、ウェルビーイングは自分の置かれた状況や人生を通して揺らぎ、変化する概念として捉えられています。子ども時代のウェルビーイングや心の状態はその先の人生に影響するからこそ、子どものウェルビーイングを大切に捉えていくことが必要です。

日本の子どもたちの現状

悪化している日本の子どもの“幸福度”

2013年………31カ国中**6**位
2020年………38カ国中**20**位

その中で、精神的幸福度は
38カ国中下から2番目の37位

高い若者の自殺死亡率

15歳から19歳の若者の自殺死亡率**7.5**
（10万人あたりの自殺者数、2013年-2015年3年間平均）

この数字は平均より高く、
38カ国中下から12番目にあたる

出典：ユニセフレポートカード16『子どもたちに影響する世界 先進国の子どもの幸福度を形作るものは何か』、2020年



複層的な要素で形成される子どもの環境

日本の子どもの「精神的幸福度」は、調査国38カ国のうち37位と非常に低い数値が示されています。ユニセフレポートカード16では、子どもの幸福度は、子ども自身の行動や人間関係、保護者のネットワークや資源、そして公共政策や国の状況から影響を受けることを示す、多層的なアプローチをとっていると書かれています。つまり、子どもの幸福度には、子ども自身だけでなく、子どもの周りの友人・知人、家族、政府、地域社会が影響しているということです。そして子ども自身が自分の周りに影響を及ぼせると感じられるためには、日々の暮らし、地域、学校などの中で声が聴かれて反映される経験が必要です。

誰もが子どもを取り巻く社会をつくる一員

子どもの幸福度には様々な要素が関わっているからこそ、子どものことを家族の責任や限られた枠組みだけで捉えるのではなく、社会に生きる私たち一人ひとりが関わる問題として捉え、向き合っていく必要があります。私たち一人ひとりの「何かしたい」という思いや違和感、願いは市民性の大切な種であり、子どもも自分も社会もウェルビーイングな状態を試行する大切な入り口です。子どもを、そして誰をも一人の人として大切にしようとする社会の営みが生まれるように、PIECESはこれからも様々な人や団体とともに市民性の醸成に取り組んでいきます。

一人ひとりのもつ市民としての力がつながり広がる市民社会へ

PIECESは、子どもたちを一人の人として大切にすることを育むため活動しているNPOです。人としての根源的な欲求や権利は、幸せを求められることだと思っています。その幸せを感じるときは、自己実現が満たされている状態でありましょう。ただ、自己実現とは一人だけでできることでなく、多く人との関わりがある社会が必要です。NPOの基本的な存在意義に、一人ひとりのもつ市民としての力がつながり広がる市民社会の育成があります。小さな笑顔が他の笑顔へとつながるように、小さな寄付も他の寄付へとつながるように、私はPIECESを応援し続けます。皆さんも、一緒にどうぞ。



シブサワ・アンド・カンパニー株式会社
代表取締役
コムズ投信株式会社 取締役会長
渋澤 健さん

Citizenship for Children

子どもが孤立しない
地域をつくる
市民性醸成プログラム



CforCとは

Citizenship for Children（以下 CforC）は「わたしらしく子どもに関わりたい」と願う市民向けに行うプログラムです。一人ひとりが自分らしい市民性を醸成し、行動できるようになることで、子どもと自分、地域のウェルビーイングをつくることを目指しています。2022年度は、「みつめる・うけとる・はたらきかける」の3つのコースを実施しました。



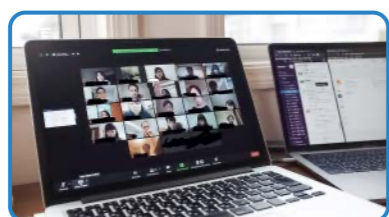
みつめるコース

実践家や専門家による講座と、同じ志を持った仲間とグループワークを行うゼミを通じて、自分や子どもの感情、地域や社会の出来事を「みつめる」ためのまなざしやマインドセットを探求します。市民性醸成のベースとなるエッセンスを学びます。



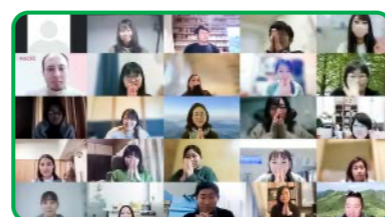
うけとるコース

CforC独自の手法によるリフレクションを通じて、自分と相手にとってよりよい関わりかたを探ります。全4回のセッションを通じて、目の前の子どもの感情や願いに目を向けると同時に、それをうけとる自分自身の感情や願い、価値観にもじっくり向き合います。



はたらきかけるコース

子どもたちの周りに「優しい間」があふれる地域をつくるため、自分なりに「はたらきかける」ことを目指します。みつめる・うけとるコースの内容に加え、講座やゼミを通じて、地域視点で学びを深めながら、自分なりの市民性が発揮されるアクションやプロジェクトを企画・実施していきます。



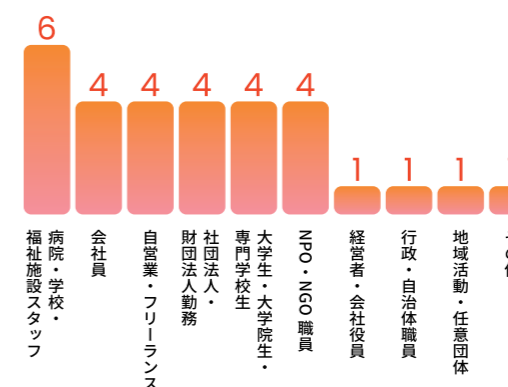
どんな人が参加したの？

2022年の参加者数

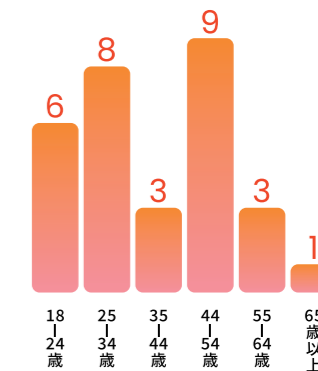
30人

全国から参加者が集まり、地域の枠を越えて学び合うプログラムになりました。参加者30人のうち、23人がうけとる・はたらきかけるコースへ進みました。

参加者の職業



参加者の年齢

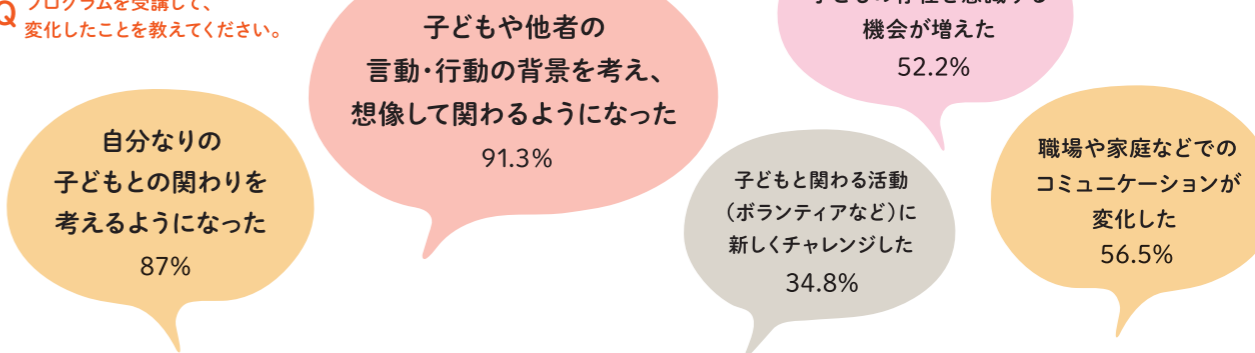


参加してみてどうでしたか？

- 子どもだけでなく、日常的に関わる人たちとの関わり方もとても意識するようになった。その人の言動や行動、表情など些細なその人から出る変化にどのような想いが込められているのか、そしてその人にしかない強みは何かを考える習慣が身についた。(35-44歳、NPO・NGO職員)
- 子どもたちから話しかけられることが増えた。私の意識していないところで、子どもたちへのまなざしが変化したのかも感じる。(45-54歳、社団法人・財団法人勤務)
- 自分がなんともないと感じていた行動に子どもの欲求が背景にあることを示唆されたり、自分が特別だと感じていた行動がそれは深い意味のない自然な会話だったのでは？とコメントをいただいたり、ひとりでは辿り着けない視界に出会えた。(25-34歳、会社員)
- 子どもの思いが大切だとわかっていながら、まわりの大人の思いに合わせてしまう自分自身に気づけた。(45-54歳、その他)
- 知識だけではなく、自分で自分の正解や大切にしたいもの、自分にしかないものを全国の仲間と一緒に見つめられる。子どもとの関わりだけでなく、それぞれの人生をととても豊かにするものだったと思った。(18-24歳、学生)
- 市民性を活かすからこそ出来る事、新たに築ける関係性があることを学びました。共にいる、ただそれだけに思える事であっても、とても大切な意味あるものになり得ることに気付く事ができて、何かを初めるのは意外と簡単なのかもしれないと、難しく考えていた頭を緩めて頂きました。(45-54歳、経営者・会社役員)

参加者の変化

Q プログラムを受講して、変化したことを教えてください。



子どもに寄り添うということ

～リフレクションの事例から～

CforC では、リフレクションを通じて子どもとの関わり方を深めていきます。関わりを客観的に振り返り、場面を再構成することで、相手の言動の背景にある考えや願いを探求し、自分自身の大切にしたい想いや価値観に気づくことを目的にしています。特に PIECES では、人と関わる際に「自分が大切にしたいこと」をみつめることを大切にしています。

タダで買えるお菓子ない?という子ども ～頭ごなしに反応されたら開示できない～

CforC2022 の参加者の A さんは、自身が関わっている駄菓子屋にやってきた子ども B ちゃんとのやりとりをリフレクションで取り上げました。B ちゃんはお金を持っておらず「タダで買えるお菓子ない?」と聞いてきたそうです。A さんはタダで買えるお菓子は無いことを伝え「ちなみに何が欲しい?」とも聞いてみました。いくつかやりとりした後、「じゃあ 100 円あったら買いたいものかごに入れてくれる? B ちゃんおすすめセット作って売ってみようよ!」と A さんは言いました。B ちゃんは楽しそうにおすすめセットを作ったそうです。

大人として社会のルールを伝えることと寄り添うことの葛藤

このリフレクションに参加していた C さんはこんな気づきを得たと話してくれました。

- 私がこんな場面に出くわしたら、大人として子どもに社会のルールを教えなければという気持ちが先に来ると、子どもの心に寄り添うを見失ってしまうかもという不安な気持ちが最初に湧いてきた。
- 万引き=悪いこと=悪いことをする子=要注意人物、というラベルをその子に貼りそうになっていた。
- 「お金持って来てね～」と言い、「万引きお断り」みたいな張り紙をしたら、その子を駄菓子屋から、子どもにとってワクワクする社会から「排除」してしまうことになる。

ある場面を切り取っても、その場面の見方や子どもへの接し方は人それぞれです。だからこそ、CforC で他者と共に学ぶことで、他者のまなざしの背景と自らのまなざしに気づき、見立ての幅を広げていく。それが私たちの住むまちに優しい間が広がっていくことに繋がると考えています。



市民性の広がり これまでの CforC 修了生から生まれたもの

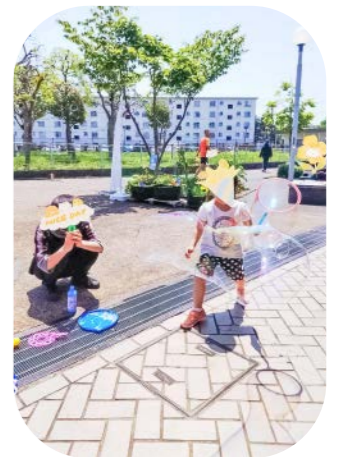
地域共生リビング aimaima ～あいまいま～ CforC2021修了生 しげちゃん

地域共生リビング aimaima は、地域に開いたみんなの居間 (ima)。子どもを真ん中に、いろいろな人が、いろいろな人と一緒につくる曖昧 (aimai) な空間 (ma) をここで広げていこうと生まれました。3 児の父であり保育士であるしげちゃんは、親子コミュニティ asobi 基地の愛知県リーダーとしても活動しながら、自分の子育てを通して、お子さんやその周りの子たち、地域の子たちにできることがあるのではないかと思います。地域共生リビング aimaima を作ろうと考えたそうです。マンションの一室を借り、住民だけでなく地域の親子、お年寄りなどいろいろな人たちが来れるよう開放中。現在は、認知や仲間を広げるため、近くの公園で出張 aimaima としてイベントも開催しているそうです。いろいろな人たちが自分の居間のように、みんなそれぞれの過ごしやすい「あいまいな空間」を地域に広げようとしています。



しゃぼん玉で道行く人とゆるくつながる CforC2021修了生 さやかさん

立川のモノレール下の遊歩道でしゃぼん玉を飛ばしています。家族連れやいろいろな地域から遊びにくる人がいる中で、しゃぼん玉と一緒に飛ばしたり、見ていってもらったりしています。やっているのは精神保健福祉士として、子どもから大人までの人が安心して地域の中で生活できるようにお手伝いをしていさやかさん。福祉職をやってきた誇りがある一方で、自分の中で割り切れない葛藤を抱えていましたが、CforC としゃぼん玉の活動を通していろいろなものが見えたといいます。しゃぼん玉を吹いていると、木陰でずっと見ている子や走り寄ってきて一緒に飛ばし始める子もいます。お父さんお母さんが「行くよ」と呼びかけても、ずっとしゃぼん玉遊びしている子どももいるそうです。それぞれの距離感やコミュニケーションの取り方があり、自然体で思い思いに過ごしているとのことでした。



子どもに寄り添う人のための休憩所 CforC2021修了生 ゆき絵さん

子どもに寄り添う人たち同士が悩みを打ち明けたり、一緒にもよもやしたり、共感しあったりできるオンラインの場。主催者のゆき絵さんは、中学校で相談員をしていますが、教師でも専門職でもない立場での活動は孤独を感じることもあったそうです。生徒の話聞いても、それが学校側や先生方にうまく伝わらず、分かり合えないもよもやを抱えたまま、誰にも相談できない。子どものそばでいろいろな思いを抱えている人が他にもいるのではないかと思います。「聴いてもらったり、共感しあったり、アドバイスをもらったりすることができる場所をつくりたい」とこの活動をスタートさせました。毎月1、2回の zoom 会と、不定期で特別企画を開催しており、過去には世田谷区の調査結果をもとに子どもを取り巻く環境について対話をしたり、児童養護施設でのボランティアについてメンバーから話を聞く会を開催したりしました。

これからの展開

CforC コンソーシアム START!

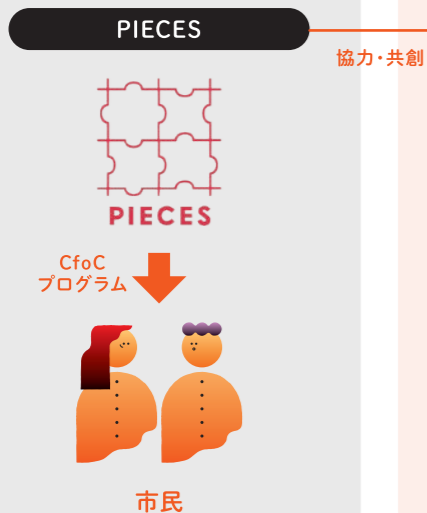


2016年の法人設立以降、約6年に渡って開発を進めてきた「Citizenship for Children プログラム (CforC)」。

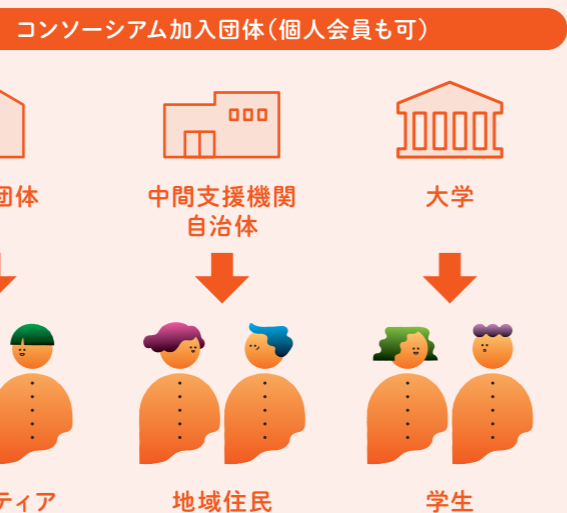
これまで、どのような原理で一人ひとりの変容や市民性の醸成をもたらせるかに関する試行錯誤を進めてきましたが、一定の仮説検証とプログラム開発が、この間の取り組みによっておおよそ完了に至りました。同時に、NPO 法人セカンドリーグ茨城さんとの水戸地域での協働、認定 NPO 法人 Living in Peace さんとの奈良地域での協働なども経て、協働モデル

でのプログラムについても実証を進めることができました。それらの状況を踏まえ、今年度はこれまでの開発フェーズから普及・発展フェーズへの移行に本格的に着手するべく「CforC コンソーシアム」というプロジェクトをスタートさせました。これは、CforC を「PIECES による取り組み」から「各地の団体や機関、自治体等との協力・共創による取り組み」へと変容させることで、持続可能かつ効果的な取組に進化(深化)させるためのチャレンジです。

これまでの取組み(継続)

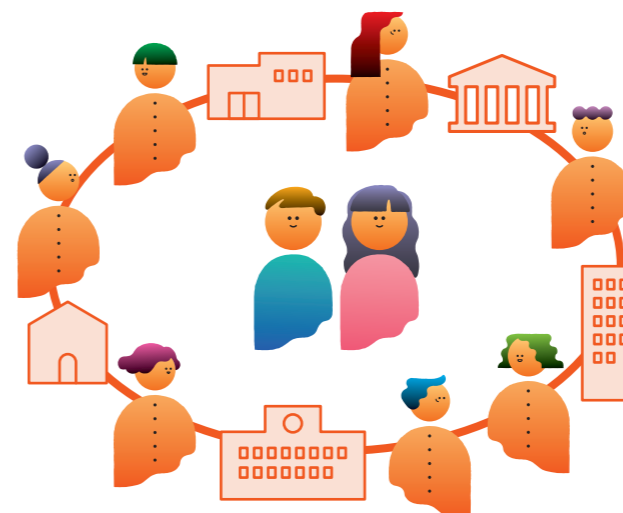


これからの取組み(新規)



このプロジェクトの肝は、コレクティブな力を活かすところにあります。「市民性の醸成」という普遍的な課題だからこそ、PIECES 一団体でできることに限りがあります。だからこそ、地域やセクターの壁を越え、単なる知見の共有に留まらずに協力・共創に励んでいくことには大きな可能性はあるはずです。

子どもの孤立を防ぐCforCコンソーシアム



コンソーシアムの立ち上げ

市民性醸成をもたらすための知の共有化・可視化が図られる

コンソーシアムの組織化が進み、各地で多様なセクターとの協力・共創が推進される

市民や支援者のまなざしが変容し、多様で豊かなつながりを創出する

今年度を振り返って

今年度は、コンソーシアムの全体構想づくりや事務局の立ち上げから取り組み始めてきました。ありがたいことに、この駆け出しのプロジェクトに対して、複数の助成金を頂くことができたため、じっくりと腰を据えて基盤づくりから取り組むことができています。



また、2023年1月26日には、本プロジェクトの構想を初めて対外的にお伝えするキックオフイベントも開催できました。100名近い方からの申込を頂き、参加後のアンケートでは約6割の方から、「自身の関わる団体・機関等として、コンソーシアムへの参加や CforC プログラムの協働・連携について積極的に検討したい」、あるいは「個人として CforC やコンソーシアム運営に参加・協力したい」といった声を頂くことができました。自団体単独で行う事業に比べれば、時間も手間もかかるのかもしれませんが、その手間のかかるプロセスで生まれる葛藤や緊張を手放さずに対話を重ねることこそ、社会の土壌をつくる上で大事なことだと信じて、これから粘り強くチャレンジを続けていきます。

スタッフの声



くりの さやか

修生が運営に関わる動きが生まれ、受講生の情報交換が行われたりしています。運営では、スタッフが増えることで生まれる課題やトップダウン式でやるのは CforC らしくないのではないかという議論も出てきました。



鈴木 唯加

無自覚な自分、蓋をしていた自分。CforC の仲間となら少しだけ覗いてみようかな。安心して迷える間がオンラインでも生まれてきていた 2022。そのプロセスとともに在ることが私にとっての豊かさでした。



- 市民性を耕す啓発活動 -

Cultivate-Citizenship

私たちは「耕す」という意味のCultivateを使い、啓発活動を「Cultivate Citizenship」と名づけています。

啓発活動の目的は「子どももおとなも尊厳が大切にされる社会の土壌をつくる」こと。

そのためには、一人ひとりの感情や価値観、その背景に関心を持ち、

互いに共鳴し合う「私たち」として存在している感覚が大切だと考えています。

私たち一人ひとりがすでに持っている「市民性」を発揮していくことで、少しずつみんなで、自分たちの手元から、「こどもがこどもでいられる社会」を育てていくために、以下の活動を行っています。

発信 01 普及 02 共創 03

子どもを取り巻く環境、課題、社会の状況について、そこに起こっている事実とその背景にある構造を丁寧に伝えます。

子どもの権利月間

誰もが、誰かにとって「信頼できる他者」となりうる気づきを届けます。自分や他者の市民性に出会うことは、市民性を発揮する入口に立つことにつながります。

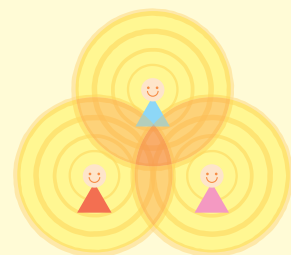
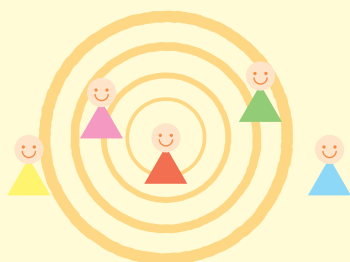
問いを贈ろう

社会は私たち一人ひとりの行動によって変化し、動いていきます。一人ひとりが持つ「市民性」が発揮されやすい環境を耕すことで、豊かな社会の土壌をつくります。

講演活動

PforP

政策提言活動



報告

問いを贈ろう

8.15-10.1

20個の「問い」が、社会のウェルビーイングへ

届いた人数：

316,944人

※問いが表示された回数

アクション数：

6,523件

※問いに対するいいねやリツイート数など

SNS などを通じて 20 の「問い」を発信。「問い」に対するリアクションの数で、自分や社会、世界に対する関心の広がりを探りました。問いに対して、タレントの福田萌さん、新生児科医の今西洋介さんなど、さまざまな分野で活躍する 18 名の方からお返事をいただきました。「問い」を通じて自分や他者、世界に想いを寄せる、その想像力の先に、誰もが大切にされる社会があると信じています。

Q

次の時代に生きる子どもたちに残したい世界はどんな世界ですか。



すべての問いはこちらからご覧いただけます

Q

あなたの人生で一番大切なものは、なんですか。



子どもたちが自由にのびのびと子ども時代を謳歌している世界。アリの行列を眺めたり、雨上がりの下校時に傘を逆さにしたり、砂場でケーキ屋さんしたり、秘密基地を作ったり。本能のおもむくままに遊んでいる世界。

家族や仲間と一緒に未来や希望を語りあう時間。

明日が来ることを疑わずに生きられて、今の私たちが間違っていると気づいたことが正しい方向へ変わっている世界。

なんかもよもやしても(ま、いっか)と聞き直れて、安心できる居場所があって、まあ明日も生きてやってもいいかなって思える世界。

選択する自由があることかな。選択の責任はもちろん引き受けます。

突き詰めると自分の気持ちかもしれない。自分の気持ちが大切にできないと、誰かを大切にすることもできない。

報告

講演活動

4.1-3.31

講演・イベントの定期開催から認知拡大へ

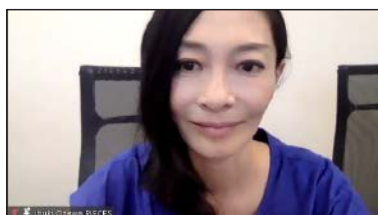
イベント開催／登壇数：

48回

参加者数：

400名以上

日本の子どもを取り巻く環境や PIECES の取り組み、一市民・一企業という立場でできることなどを普及させるため、講演や研修などを行っています。コロナ禍が続く中、少しずつ対面での開催が再開できました。



6周年特別トークセッションでは、評論家・ラジオパーソナリティの荻上チキさん、一般社団法人 NO YOUTH NO JAPAN 代表理事の能條桃子さんをゲストに招き、市民性について深めました

報告

子どもの権利月間

11.7-12.15

子どもの尊厳を守ることは大人や社会の大切な役割

届いた人数：

180,505人

※情報が表示された回数

アクション数：

3,131件

※いいねや
リツイート数など

すべての子どもが生まれながらにして持っている「子どもの権利」。しかし、子どもの約3割、おとなの約4割が「子どもの権利条約」について「聞いたことがない」と答えています※。改めて子どもの権利の重要性をとらえなおし、情報発信やイベント開催を通じて、子どもの権利の普及推進を行いました。

※出典：公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン「3万人のアンケートから見る子どもの権利に関する意識」

もしかしたら子どもの権利、 侵害している #かもしれない？

暮らしの中での子どもとの関わりを「かもしれない」の視点で見つめ、子どもの権利を尊重するとはどういうことか、解説と共に深めました。



すべての事例と解説はこちらからご覧いただけます。

子どもの権利を学ぶ親子イベントを開催

大人だけでなく、子ども自身が「子どもの権利」を自分たちの権利として知ることが大切です。「学校のルールってどうやって決まっている？」「どんなときに自分の気持ちを伝える？」など、普段の生活を通して子どもの権利を深めました。



4歳から中学生まで10名の子どもたちと保護者が集まりました

報告

4.1-3.31

政策提言 活動

こども家庭庁開設、
こども基本法施行へ

主な活動として、「こども基本法」の公布に向けて、市民社会組織の一つとして当事者と共に提言を進めました。

「こども基本法」は2023年4月に施行されましたが、すべての子どもを対象にし、子どもの権利条約に則った法律ができたことは、子どもの尊厳が大切にされる社会に向けた大きな一歩といえます。

スタッフの
声



矢部 杏奈

先行きの見えない社会状況が続く今、市民一人ひとりの「あり方」が問われていると感じています。他者へのまなざしや想像力などから優しい間が紡がれていく、そのプロセスを一緒にできたら嬉しいです。



藤田 奈津子

忙しい日常でちょっと立ち止まり、自分や周りのできごとにまなざしを向けてみる。私たち誰もが持っている「市民性」を再発見し、一人ひとりの手元から「優しい間」をPIECESとともに紡いでいけると嬉しいです。



Piece for Peace

寄付者限定 オンラインスペース

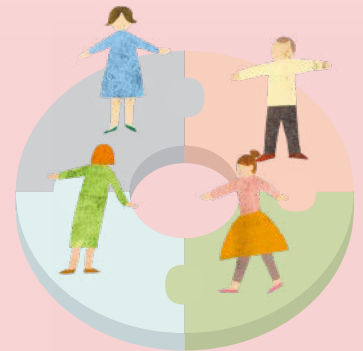
寄付者限定 オンラインスペース Piece for Peace (以下 PforP)は、PIECES メイト(継続寄付者)が集まり、日常のもやもやや迷いを、お互いにくれとめあいながら、社会も自分もウェルビーイングになることを目指したオンラインスペースです。みんなの力が少しずつ集まることで、大きな市民性の力に変わっていく。一人ひとりが「Piece for Peace」を目指します。

PforP は、Slack というチャットツールを使ったオンラインスペースです。Slack の中では、PIECES を起点に参加者同士のつながりや対話が生まれています。



情報交換 や人と人のつながりが生まれる場

PIECES を起点に参加者同士のつながりや対話が生まれています。PforP に参加している人は、PIECES 以外の場で活動している方も多く、メンバーの活動現場を訪れたり、メンバーが挑戦しているクラウドファンディングに参加したり、さまざまな連鎖が日常的に育まれています。「この地域でこんな人/団体/情報を探しています」といった呼びかけに、他のメンバーが答えたことで、新たな活動が生まれた事例も出てきています。



「気持ちの持ちようとなるヒントが得られる場」

Slack 内で PforP メンバーの市民性の話を投稿しているのを見て、自分の子どもだけでなく、他の子どもとの関わりへの意識を持つようになりました。日常にある「ちょっとしたこと」が市民性に繋がると感じています。わざとではなく、さりげなく、たったそれだけと思う内容がシェアされていることが心地良い。いつも自分のこと、周りのことを気にしてくれる人がいたり、傍にいてくれる人がいる。PforP という場がいろいろな人にとって、日常の中に取り込める活動、気持ちの持ちようとなるヒントを得られる場になってほしいと願っています。

2019年12月から
PIECESメイト

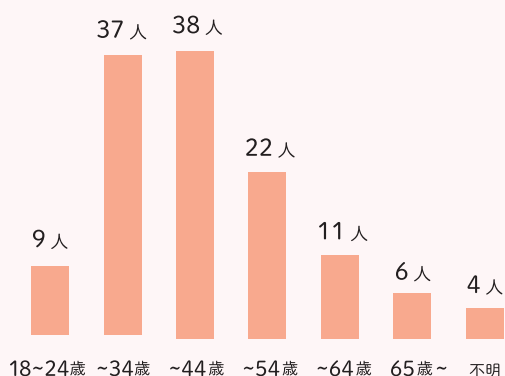


浦野裕一さん
会社員

どんな人が参加しているの？ 参加人数：127人（2023年4月1日時点）



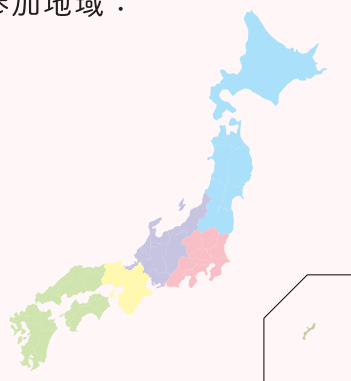
年代：



職種：

会社員：	41人	自営業・フリーランス：	22人
NPO・NGO職員：	14人	経営者・会社役員：	5人
病院・学校・福祉施設スタッフ：	5人	大学生・大学院生：	5人
地域活動・任意団体：	5人	社団法人・財団法人：	5人
その他：	12人	不明：	13人

参加地域：



関東：92名

東京都 59名、神奈川県 16名、
埼玉県 6名、千葉県 5名、茨城県 3名、
群馬県 2名、栃木県 1名

関西：14名

大阪府 7名、京都府 2名、奈良県 2名、
三重県 1名、兵庫県 2名

東北：1名

岩手県 1名

中部：9名

愛知県 4名、静岡県 2名、
長野県 2名、新潟県 1名

四国・九州・中国：9名

広島県 2名、岡山県 1名、
福岡県 3名、長崎県 2名、愛媛県 1名

海外：2名

シンガポール 1名、
台湾 1名

「今日の市民性チャンネル」を覗いてみよう！



PforPのslackにはさまざまなチャンネルがあり、その一つが「今日の市民性チャンネル」。ここでは、メンバーが暮らしの中で出会った市民性エピソードをシェアしています。PIECESが目指す「優しい繋がりが溢れる未来」は、私たち一人ひとりが優しい間をつむぐ市民性を発揮していくことからはじまると考えています。



電車から降りようとした人が座席に忘れ物をしていて、忘れてますよ！と渡している人がいました！



お世話になったゲストハウスの一階にあるカフェのお兄さんが「行ってらっしゃい」とおいしいおにぎりをくれました。



レジの店員さんがカフェから出て行かれる人一人ひとりに、「ありがとうございます、今日も良い1日を、お気をつけて行ってらっしゃい」などと声をかけてくださって朝からほっこりした気分になりました。



土砂降りの中、雨宿りしていた私に見知らぬ方が傘をくれました。



路面電車で席を譲りました。

2022年の動きをピックアップ!

Citizenship Lab

“市民性に触れ、市民性を探求する”をテーマに、Citizenship Labというオンラインイベント等を開催。ゲストを招いて多様な分野の市民性について学んだり、メンバー同士の対話を通して一人ひとりができるアクションについて考えるイベントを開催しました。



代表理事の小澤が特定非営利活動法人JIM-NET(日本イラク医療支援ネットワーク)のイラクの現場を訪問し、そこで出会った市民性などを伝えました。

ふとんで#まどラジオ

PforPに参加するメンバーが、自分の暮らしのサイズ感で市民性について対話する「ふとんで#まどラジオ」を毎月第3金曜夜に配信しました。1年間で12名のゲストをお呼びし、それぞれが最近感じていることなどについて話しました。



認定NPO法人ピッコラーレのミキティさんをゲストに「ふとんで#まどラジオ」を配信しました。

問いを贈ろう展覧会

問いを贈ろうキャンペーンの一環として、2022年9月23日に上池袋にあるくすのき荘で展覧会を開催しました。約40名の方にご来場いただき、PIECESが贈った問いについて考える、ワークショップに参加する、平和の象徴であるハトを吊るす、などして一緒に場をつくっていただきました。足を運んでくださったみなさま、ありがとうございました。



上池袋のくすのき荘にて、問いを贈ろう展覧会を開催しました!

スタッフの声



佐藤 麻衣

イベントやヒアリングを通して、みなさんとお話する機会を頂いています。2023年もみなさんからの声をPforPに活かしたいと思っています! PforPのコミュニティづくりに関心がある方はお声かけください!



中原 亮 (まきばメンバー)

皆さまとともに、PforPというコミュニティを育ててきました。この場から生まれる市民性の発露に出会えることに感謝しています。2023年は安心して交流ができ、皆さま自身の内側にある市民性溢れる空間に目を向ける機会を作っていきます。ともにこの場を楽しんでいきましょう!

Partnership たくさんの方に支えていただいています

PIECES はさまざまな方と共に活動を広げています。みなさまからのご寄付や助成金に支えられ、子どもが子どもでいられる社会を目指した活動を進めることができます。

企業・団体によるご寄付

アイオイスク株式会社
Hariqua

ideal leaders
アイディール・リーダーズ株式会社

SMBCグループ
ライジング基金

Colere
株式会社コレル

CBIC
株式会社シービック

大和証券グループ本社
Daiwa Securities Group Inc.
株式会社大和証券グループ本社

TAKEMURA
株式会社竹村コーポレーション

Harch
ハーチ株式会社

BIPROGY
BIPOLOGYグループ
社会貢献倶楽部「ユニハート」

株式会社シービック様
からのメッセージ

「人類の未来は子どもたちにかかっている」という基本認識のもと、わたしたちは「子どもたちの健やかな未来の実現」をパーパスに掲げています。一見豊かに見えても相対的貧困が拡大しているこの日本の現状の中で、PIECES様の「子どもの孤立」を防ぐ活動は、未来への大切な取り組みであると思います。この活動が少しでも多くの人々に伝わり、紡がれていくことを願っています。

寄付付き商品の販売、広報、プロボノなどによるご支援

株式会社L&E / 株式会社カロッツァ / NEXTswitch株式会社 / 株式会社ブギ /
株式会社FOLK FLOWERS / PRTIMES / PwCコンサルティング合同会社 / 株式会社ポジティブティ

助成団体

公益財団法人トヨタ財団国内助成プログラム※ / Panasonic NPO / NGO サポートファンド for SDGs
※PIECESが事務局を務める「CforCコンソーシアム」として採択

加盟団体・ネットワーク

以下団体・組織のメンバーとなり、子どもを取り巻くさまざまなステークホルダーと連携して、活動を進めています。
孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム(会員)、広げよう!子どもの権利条約キャンペーン(実行委員団体)、
G7市民社会コアリション2023(幹事団体)、新公益連盟(会員)

PIECESメイト(継続寄付者)

単発寄付

414名

504名

たくさんの方が寄付という形で活動を広げてくださることを大変心強く思います。2022年6月の6周年の際は、温かい応援メッセージもたくさん寄せられました。

寄付者からのメッセージ

PIECESの活動は「畑を耕す」ことに似ているのかなと思いました。水をあげたり添え木をするわけじゃないけれど、保水力を持ってしっかり根を張れる、ふかふかの土壌作り。豊かな土壌がさらに拡がりますように、微力ながら応援しています。(30代)

今を生きる子どもたちになにかできることはないか、その一つの答えとして少額ながらもPIECESに寄付させてもらうことかなあと考えました。子どもたちが「生きるっていいことだな」と思ってもらえるように個人でも小さなことから始めていきたいと思っています!応援しています!(30代)

PIECESメイト
募集中!

仲間という意味を含めた「PIECESメイト」。月1,000円からのご寄付で、一緒に優しい間を広げていく仲間を募集しています。



古本チャリティ

フクチャリ

39件

25件

株式会社ブギさんが運営する「本棚お助け隊」と「フクチャリ」の仕組みを通じて、古本や古着の換金による寄付を受け付けています。合わせて64件のご協力をいただき、13万円を超える寄付につながりました。



株式会社ブギ 代表取締役
菅原大司さん

「情けは人のためにならず」という感覚で古本チャリティの取り組みを行っています。自分たちも嬉しくなり、みなさんのためにもなるのであればそんな良いことはないと思い、活動を続けています。

読み終えた本、
送ってください!

本、DVD、CD、ゲームソフトなどが寄付になります。オフィスやお店などにBOOK POSTを設置いただける「チャリティパートナー」も募集しています。



まきば(プロボノ・インターン)

PIECESでは、プロボノ・インターン・スタッフを合わせて、PIECESの目指す世界観に共鳴しているメンバーを「まきば」と呼んでいます。組織の内部、外部という線引きをするのではなく、目指す未来に向かって共に活動しています。



まきばメンバーの声



児玉 悠さん

子どもが自分の好きなものを見つけ、自分らしく表現し、生きてゆく。その愛おしい時間や過程を少しでも守り、最大化させるための補助線を引くような活動がしたいと思い、今PIECESという場に身を置いています。こんな情報過多な時代だからこそ、ただ問題を突きつけるだけではなく、それを少しでも自分ごと化しやすい形で世に放ち、少しでも、立ち止まって考えてもらえるようなきっかけをつくっていったらいいかなと思いながら、日々活動に携わっています!

2022年度 活動計算書

(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

科目		金額		
		前々期(2020年度)	今期(2022年度)	
経常収益	受取寄附金	17,890,261	33,226,932	
	受取助成金	9,210,774	3,936,000	
	事業収益	9,707,605	3,978,711	
	その他収益	178	255	
経常収益計		36,808,818	41,141,898	
経常費用	1)事業費	人件費	12,776,971	15,963,623
		法定福利費	1,769,607	1,955,297
		地代家賃	1,003,317	1,056,000
		旅費交通費	296,570	324,542
		謝金	4,477,998	290,000
		業務委託費	19,095,234	3,614,831
		広告宣伝費	401,580	177,232
		通信運搬費	180,860	182,937
		支払手数料	360,304	37,215
		消耗品費	338,241	84,624
		印刷製本費	458,936	31,992
		その他	289,223	756,270
		事業費計		41,483,541
	2)管理費	人件費	2,160,000	3,780,000
		法定福利費	269,938	462,992
		地代家賃	153,183	264,000
		謝金	299,412	847,000
		業務委託費	1,994,340	1,246,226
		支払手数料	1,045,825	2,690,820
		その他	410,884	867,205
	管理費計		6,333,582	10,158,243
	経常費用計		47,817,123	34,632,806
	当期経常増減額		-11,008,305	6,508,837
経常外収益		0	0	
経常外費用		0	0	
当期経常外増減額		0	0	
税引前当期正味財産増減額		-11,008,305	6,509,092	
法人税、住民税及び事業税		0	0	
前期繰越正味財産額		37,363,319	31,739,985	
次期繰越正味財産額		26,355,014	38,249,077	

※前期の2021年度は、事業年度の変更に伴い年度内期間が5か月(2021年11月～2022年3月)だったため、前々期の2020年度との比較で示しています。

① **受取寄附金** 前々期比では、約2倍にあたる15,336,671円の増収です。今期も400名を超えるメイトの方々によって活動を支えていただきました。他方、法人や個人篤志家の方による継続的な寄附や、新規での寄附機会に恵まれたことが影響し、大幅な増収につながっています。

② **受取助成金** 今期は、事業活動への複数年助成1本、組織基盤強化への助成1本、公的助成金1本の、合計3本の助成金をいただきました。

③ **事業収益** CforCプログラムの参加費や、CforCプログラムで利用するコンテンツやノウハウを法人向けに提供した際の利用率などが主に計上されています。

④ **経常収益計** 前々期比では、4,332,825円の増収です。寄附モデルへと舵を切ったこの数年間団体運営を行ってきた中で、今期も個人・法人問わず本当に多くの方々の温かいご寄附によって事業活動を展開できたことに、心から感謝しています。

⑤ **人件費** 事業活動に関わるスタッフの増員のため、前々期比では、3,186,652円の増加です。PIECESでは、皆様からのご寄附の多くを事業活動の担い手となる理事・スタッフの人件費として充当しています。

⑥ **謝金、業務委託費** 前々期では、コロナ禍での緊急的な活動実施の際に、医療・福祉分野をはじめとした専門家やデザイナーなどに多くの謝金や業務委託費の支払いがありました。今期は例年の水準に戻っています。

⑦ **人件費** 管理運営業務に携わる理事・スタッフへの報酬・給与を計上しています。今期から2名の理事に役員報酬を支払っていることなどにより、前々期比では、1,620,000円増加しています。

⑧ **業務委託費** 経理・総務・労務等の一部は、外部の専門家の方と委託契約を結んで業務を担っていただいております。これらの費用を業務委託費として計上しています。

⑨ **支払手数料** 寄附額の増収に伴って生じた仲介手数料が増加している影響で、前々期比では、1,644,995円増加しています。

⑩ **当期経常増減額** 従来から行っているCforCプログラムや啓発事業は緩やかに広がりを見せている一方で、コロナ禍での活動が終了したため、前々期比では、13,184,317円の支出減となりました。

⑪ **次期繰越正味財産額** 今期も多くの寄附者の存在に支えられ、事業活動を展開することができました。来期への繰越額がやや大きく見えるかもしれませんが、2023年度から本格化するCforCのコンソーシアム化など、いくつかの大きなチャレンジの原資として活用予定です。既に新しく4名のスタッフが加わるようになっており、これまでより一段高いステージへと組織を成長させられるように、今後の事業活動や組織運営に励んでいきます。

次年度に向けて

2023年度、PIECES全体として共通するテーマは「チャレンジ」です。月並みな表現ではありますが、様々な巡り合わせの中で、事業面・組織面どちらにおいても新たなチャレンジがスタートしていきます。

事業面では、これまで開発を重ねてきた Citizenship for Children (CforC) のプログラムデザインを、これから2年間かけて大きくモデルチェンジさせていく予定です。根底にある思想やコンセプトは変わりませんが、これまで「研修プログラム」の色合いが強かったところから、運営者・参加者といった垣根を極力なくした「市民による市民のための実践共同体」へと変容させていく構想を描いています。併せて、「CforC コンソーシアム化」のプロジェクトも本格化させ、他団体や他セクターを巻き込んだ形でのコレクティブ・インパクトの実現に向けた試行錯誤にも取り組んでいきます。

また、これまで年間通して十分なリソースを割いてこれなかった啓発活動「Cultivate Citizenship」についても、CforCと並ぶ事業の二本柱として据えていくことになっています。CforCの取組だけでは、どうしても広く市民性の醸成に寄与することが難しいこともあり、「子どもの権利」や「人の持つ想像力」などを入口に、WEBでのキャンペーンやイベントなどを通じて「市民性」を身近に感じ、考えられる機会を作っていきたいと考えています。

一方、組織面では、まだ十分な言語化はできていませんが、PIECESという「組織のミッションを実現するための個の集合」というパラダイムから、共有する価値世界があった上で「一人ひとりの願いやミッションに根差した活動が展開されるフィールド」としてのPIECESへと変化を始める1年になりそうです。

2023年には、5年に1度の、そしてPIECESとしては初めての認定NPO法人格の更新も控えています。上記のようなチャレンジのプロセスも含めて、今後もよりオープンな事業運営、組織運営に励んでいきたいと思えます。ですので、気づいたことやご提案などあれば、是非気軽にご連絡やお問い合わせください。これからもみなさんと対話を重ねながら、ともにPIECESの活動を発展させていければ幸いです。

PIECES 理事・事務局長

齋 典道



新たに加わる メンバーのご紹介

2023年度から新たに4名の心強いメンバーがスタッフとして加わります。4名それぞれの、今の気持ちや意気込みと併せてご紹介します。

わたしの幸せと、あなたの幸せは等しく尊い。そんな風に誰もが感じられたら素敵です。PIECESが提案する「優しい間」が広がる未来の先にある、私が見たい景色です！



泉森 奈央
CforC 運営

「市民」という言葉はこれまでも近くにありましたが、改めて「市民性とは」と問い直しています。「自分らしい子どもたち、地域や社会との関わり方」を私自身も探求しながら「優しい間」を広げていきたいと思えます。



阪口 きえ
CforC 運営

面倒くさくて分かりにくいことを問い、対話続けるPIECESに参加できることが、楽しみです。まずは私自身が学び続け、自分の手元から「優しい間」を広げていければと思っています。



西角 綾夏
CforC 運営

「できることをちょっとだけ背伸びしてコツコツする」が得意な村山です。PIECESの一員としてご縁をいただいたことを感謝すると共に、「子どもの孤立」解消に向けて自分にできることを一歩ずつ前進させていきたいです。これからよろしくお願ひします！



村山 裕紀
CforC コンソーシアム



私たちの手元には、過去から手渡されたさまざまな「PIECE (かけら)」があります。そして、今の時代をともにする人たちと共有する痛み・願い・風景といった「PIECE」があり、未来へ紡がれる「PIECE」があります。一つひとつの「PIECE」が影響し合い、重なり合い、今を育み、未来を紡ぎ、織りなす。

私たちの団体名「PIECES」は、“すでに私たちの手元に、願う未来のかけらがある”、“この世界をともにするどんな存在も尊重し合う平和へのプロセスは、私たちの手元から紡がれる”という意味を込めてつけられました。

認定 NPO 法人 PIECES

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-40-10 三翔ビル本郷 4F
小野田高砂法律事務所内 social hive HONGO

info@pieces.tokyo

Web <https://www.pieces.tokyo>

twitter @PIECES_Tokyo

FB pieces.tokyo

instagram pieces_npo